

技術開発は夢実現への道

コニカミノルタホールディングス株式会社

代表執行役副社長 太田 義勝



先般の日本におけるコニカミノルタの一般的なイメージ調査において、革新性とかスマートさ等の項目では相対的に低い評点であったのに比して、技術力のある会社という項目では高い得点をえています。これは過去においてコニカなりミノルタが得ていた評価がそのまま反映されているといってもよいでしょう。この調査結果に技術開発部門に従事している方々は納得し満足されたかもしれません。これまでの技術への傾注や成果が評価されているのですから素直に受け取るべきですが、これは過去の両社に根ざすものであり、一年前にスタートしたコニカミノルタに投じられたものではないと思います。本当の評価はまだこれからです。

メーカーとして技術開発に飽くなき挑戦を続けてきたコニカ、ミノルタ両社の技術リソースをひとつにして再スタートして一年になり、私たちは「新しい価値の創造」を経営理念とし、イメージングの世界で常に感動を呼ぶ企業であり続けようという経営ビジョンに則って、事業の強化、再構築に取り掛かっています。

本号では「デジタル一眼レフ」、「位相コントラスト技術を用いた乳房X線撮影」が特集として取り上げられており、それぞれ優れた成果の論文となっています。一方、これからは個別分野の技術開発に留まることなく、積極的に技術リソースの拡大・重層化による新たな視点からの追求、応用等を普段から意識して進めていただきたいと思っています。本号にもすでにデジタル一眼レフの絵作りに旧コニカのフィルムで培われた技術が生きていることや、ミラボ機の露光ヘッドに旧ミノルタの光学技術が活かされていることなどシナジーの発揮が見られ、技術リソースの拡大、融合はコニカミノルタの財産として技術開発の基盤を大いに強化しています。この他にも両者が保有してきた生産技術の活用も情報機器

の分野で多々進められ実績に繋がってきているのが見受けられます。また、元来技術の拡がりにはあらゆる事業分野に縦横無尽に繋がり、決して特定領域に留まるものではありません。そのような資産の共有、シナジーと、技術本来の可能性を常に意識して取り組むことにより、技術開発そのものも固定概念や従来の箍から解き放たれるでしょうし、少しひらめきを加えるだけで応用の範囲もなお拡がりを見せるでしょう。

技術開発は常に夢の実現への道です。それは技術者の夢だけであってはならず、当社が標榜する領域における今日、明日のお客様、また社会が一日も早く手にしたい夢です。一方、技術の進化やどんどん変遷する諸環境を思えば開発者がやりたいこと、やるべきこと、やって欲しいことの区別は容易ではありません。また、競争社会にあって繁栄を図ろうとする私企業ですから、自ずとその作業に制約があるのはやむを得ません。無制限に資源の投入ができるものでもなく、絞込みやあるステージでの商品化や中断なども要請されるでしょう。しかし、開発者魂に差があるものではありません。私たちはメーカーですから、コトに先立つモノ作りを揺るがせにはできません。そしてその基となるのは技術開発です。当社内だけにこもらないもっと幅広い産・学連携の促進も必要でしょう。

最後に、社員の皆さんへのお願いになりますが、周りにいる当社内グループの人達だけでなく、当社を取り巻く多くの人達の期待の大きさも意識し、ぜひ、たぎるような情熱とスピード感で取り組んでいただきたいものです。そして、イメージング領域において飛躍を図ろうとするコニカミノルタの、大なる事業展開の先導役ともなっていただくことを願っています。